

近自然セミナー in いわて 2009 は、環境先進国のスイス・チューリッヒ州から近自然学の理論家山脇正俊氏（スイス永住）とドイツ・バイエルン州から川づくりの実務家カール・ライトバウアー氏のお二人を迎え、さらに国土交通省河川局から吉田邦伸氏をお迎えして、海外と国内の動きを知り、環境王国いわてが目指す森と川づくりを考えます。

## 「土木＋生態＋景観」などのチームワーク

（山脇正俊著：「近自然学」より抜粋）

スイス・チューリッヒ州やドイツ・バイエルン州で生まれた新しい川づくりは、両州で長い歴史を持ち、いまだに世界をリードしていると言えよう。このチューリッヒ州とバイエルン州では、プロジェクト・チームに「土木工学」、「生態学」、「景観工学（スイスやドイツの景観工学は、日本では土木工学・造園学・林学に分散している）」の専門家が、最低限加わらなければならないとしている。

生態学の専門家：動植物の代弁者で、エコシステムの健全化に対する責任を持つ。生態調査を実施し絶滅危惧種を発見したり、改善策を提案したりする。

景観工学の専門家：住民の心の代弁者で、素晴らしいランドシャフトや親水性の実現などに責任を持つ。何年後にどのような川になるのかというイメージを描くとともに、そのために今何をすべきか（または、しないでよいか）を提案する。

この「少なくとも土木工学、生態学、景観工学の専門家がプロジェクトに加わらなければならない」という原則は、スイスやドイツでは「川づくり」ばかりではなく、「道づくり」や「まちづくり」など広範囲に適用されている。



近自然化前のロイサッハ川（ドイツ・バイエルン州）

固く単調に改修された状態で、エコロジーや親水性や自浄能力の問題が残る。洪水安全性も十分ではなかった。



1994年改修



近自然化後のロイサッハ川（ドイツ・バイエルン州）

洪水安全性を確保するために造り直された際に、近自然工法を用い、素晴らしい川に蘇生した。堤防は、确实だが目立たないように造られている。

人間の豊かさのためには、人命・財産を洪水から守ること。そして忘れてはならないのが人間の「心」を大切にすることだ。心を大切にすると、素晴らしいランドシャフト（「五感＋心」で認識する物：景観・景域・風景・風土・情景・心象風景）、つまり、気持の良い川を実現することである。

## 懇親会参加申し込み（2月17日まで）

時間／17:45～19:45 場所／マリオス20F スカイメトロ 会費／4,000円

氏名	所属	連絡先 TEL

送信先

御所ダム水源地域ビジョン事務局(担当:内田)

FAX.019-689-2271 TEL.019-689-2216(代)